

Contents

1...トップインタビュー:

「ユニ・トップの未来作りを」

社員一人ひとりが、革新する行動で第三の創業を加速します

2...財務データ(連結)

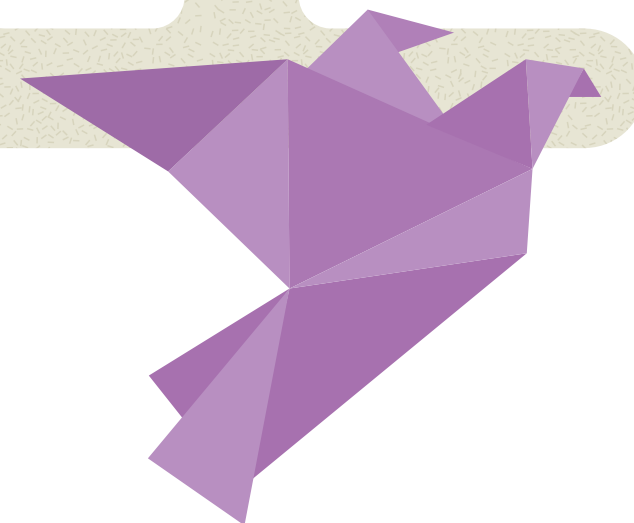
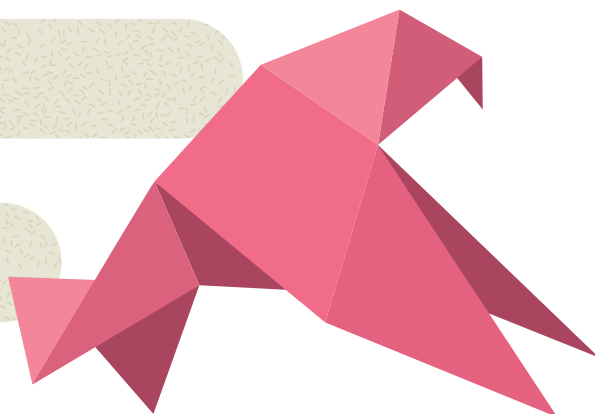
3...事業セグメントの概況

4...連結財務情報

5...DKS Close-Up

6...決議結果・株式の状況

7...会社概要





「ユニ・トップの未来作りを」 社員一人ひとりが、革新する行動で第三の創業を加速します

ユニークなひらめきと新しいアプローチで、「こたえる、化学。」のイノベーションに取り組み、「インスパイアード・パートナー」との連携を通じ、新たな企業価値を創造します。

代表取締役 会長 兼 社長 **坂本隆司**

4期連続で最高益を更新

「第三の創業」の宣言に始まった5カ年経営計画「REACT1000」も、折り返し地点を過ぎました。

「こたえる」REACTの最初の頭文字Rは、リターンとしています。企業価値の拡大は、資本性で計るリターンと見て5年計画を作りました。全社一丸の取り組みの結果、4期連続で最高益を更新しました。

霞新工場に投資した事業が好調であることや、グループ会社の四日市合成などの高稼働が収益に貢献しました。また、原材料のナフサ価格の低位安定、継続的なコストダウン、不採算部門の見直しが寄与しました。

ご支援を頂いている株主のみなさまへの感謝として、1株当たり期末配当金を2円増配し、14円といたしました。

「インスパイアード・パートナー」との 取り組み強化

当社は長年、良い製品を作り、さまざまなお客様に販売するという「製品起点」のアプローチを取ってき

ました。第三の創業では、「お客様主軸」の視点が重要と考えました。化学の素材メーカーが安定成長を目指すには、市場を作られる有力なお客様と連携することが不可欠だからです。

相互のひらめきで触発し合い、新しいアプローチを共有できるお客様を「インスパイアード・パートナー」と呼んでいます。インスピレーション、ひらめきを互いに与え、応え合うお取引先です。当社の研究部門が、次世代、次々世代を先取りし、製品を納めるパートナー作りを目指します。

国際的な日本のパートナーに海外展開可能な製品を提供できれば、当社の国際化比率は高まることになるでしょう。

営業体制では、靴のストラップ(紐)のように、組織のボトム、ミドル、トップがそれぞれの役割を果たし、会社の総合力を発揮する陣形を整えました。このストラップ作戦によるトップ外交とミドル、ボトムの連携が進み、インスパイアード・パートナーは増え始めています。

「ユニ・トップの未来作り」のために

5年前から推進している「未来作り」のプロジェクトがあります。当社の強みを活用し、すり合わせることで、新しい領域を開拓する試みです。「お客様起点」×「インスパイアード・パートナー」に基づく新しいアプローチで、コード名を付した案件が17になっています。いくつかをご紹介します。

高稼働中の霞工場では、第一ステップとして新設した3つのラインが業績に貢献しています。岩盤固結剤、基板材料、そして、電子材料分野です。2017年7月に竣工した非イオン界面活性剤は、4番目のラインですが、コード名はソーニャでした。2018年3月に起工式を行った5番目の機能性ウレタンは、周辺分野のインスパイアード・パートナーとの連携事例で、コード名はダイアン。レオクリスタ事業とエレクトセル社のそれぞれにも名前があり、4月から本社の所属とし、本来的な新材料・用途開発に特化させました。

これらと併行して講じた措置は、サクセッション・プラン(後継者育成計画)です。3年前に作った管理職評価制度のベースになったリーダーの6要件を明示しました。4月からの新体制も、未来作りの考え方を反映しています。

「第三の創業」の加速に向けて

投下した資本の収益性(ROIC)の視点を重視し、相応の成果が得られました。2018年度以降は売上成長に注力し、「第三の創業」の加速を図ります。インスパイアード・パートナーとの取引拡大、好調な子会社の四日市合成、京都エレクトクス、晋一化工などの営業を強化します。特命で進めた2つのM&A案件が成就し、

連結業績への貢献が始まります。

機能化学品事業の2部門、SE^{※1}とCMC^{※2}の設備投資を行います。特にCMCは、用途を有望分野に絞り込むこととなります。

海外展開では、2017年度末に太陽電池で世界上位の東方日昇と双一力(天津)への出資とリチウム電池開発の新事業に関する契約を締結しました。コード名は、リングでした。

さらに、次期計画を見据えた「SDGs^{※3}2020」骨格を検討し、「産業を通じて、国家・社会に貢献する」社是实现の道を確認なものにします。

※1 SE シュガーエステル
 ※2 CMC カルボキシメチルセルロースナトリウム
 ※3 SDGs(持続可能な開発目標) 2015年に「国連持続可能な開発サミット」で採択された、17の目標と169のターゲットからなる目標

株主のみなさまへ

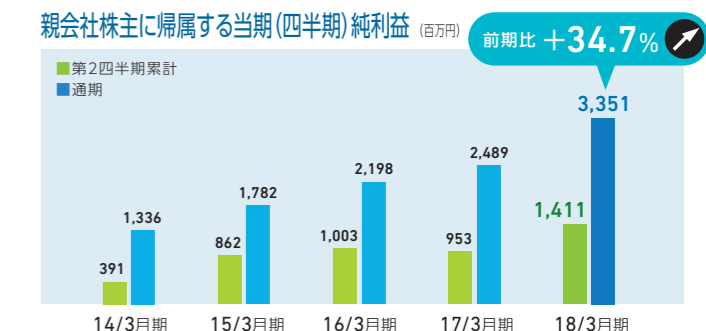
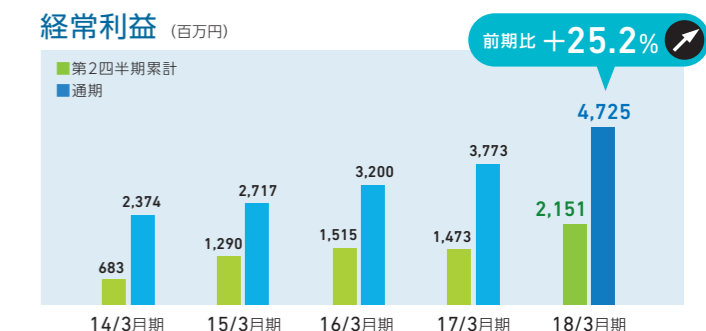
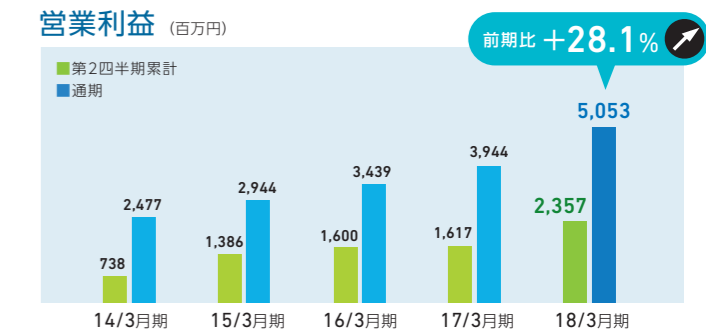
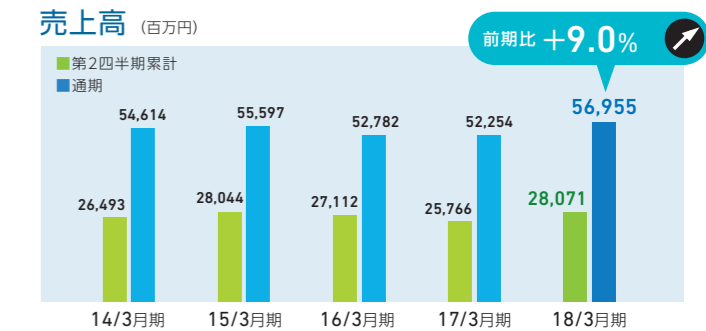
上場企業として市場の声に耳を傾け、評価に耐えられる経営が重要と考えています。現計画の初年度に、加点型の管理職評価制度を導入しました。3年目の2017年度には執行役員制度を廃止し、取締役の経営執行責任の強化を図っています。

2018年度の年間標語「ユニ・トップの未来作り」では、社員一人ひとりが行動を考えるよう指示しました。中長期的視野をもって動き、革新を創り出してほしいと伝えています。

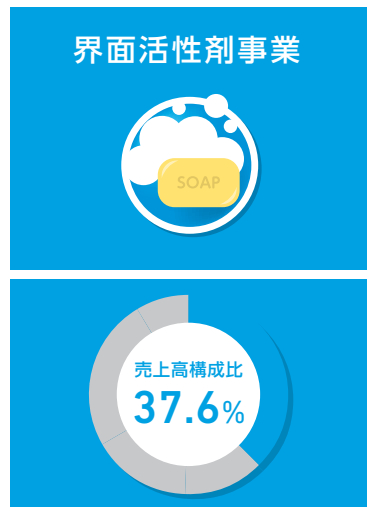
「第三の創業」を加速する取り組みによって、売上高、総資産、株価の1000への挑戦を速める第一工業製薬グループです。

株主のみなさまの、一層のご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

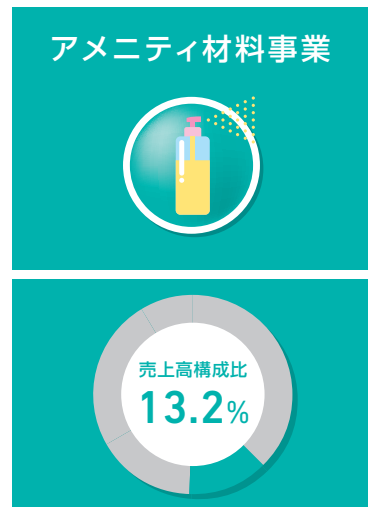
財務データ(連結)



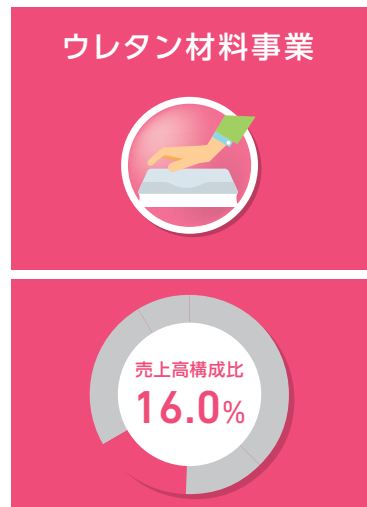
事業セグメントの概況



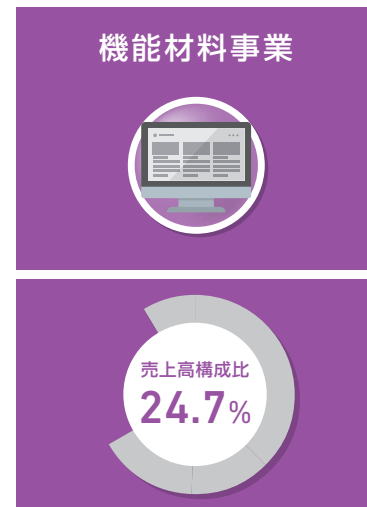
ゴム・プラスチック用途はやや低調に推移しましたが、機械・金属用途は好調に推移し、IT・電子用途は伸長しました。石鹸・洗剤用途は顕著に伸長しました。その結果、売上高は総じて伸長しました。



国内のセルローズ系高分子材料は飼料用途でやや低迷しましたが、エネルギー・環境用途は伸長しました。海外のショ糖脂肪酸エステルは食品用途及び香粧品用途が好調に推移しました。その結果、売上高は総じて伸長しました。



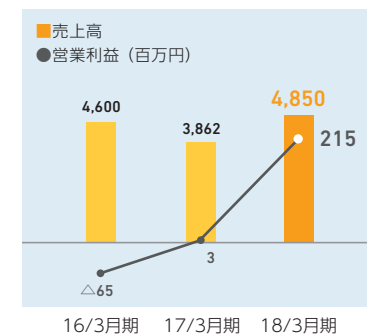
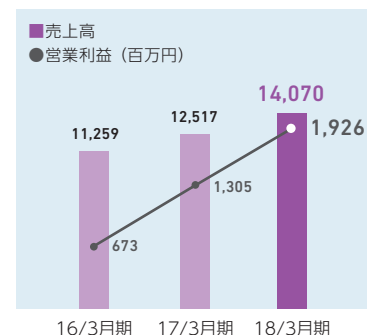
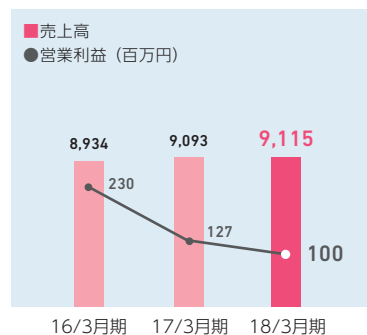
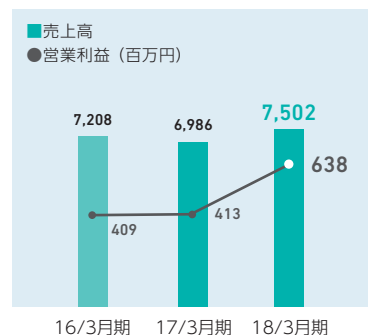
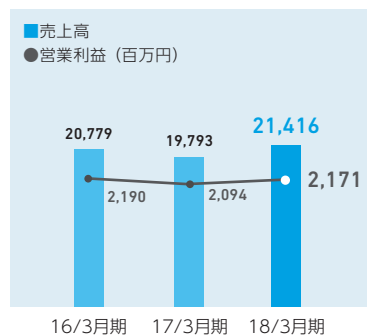
建築用途等の機能性ウレタンは低迷しましたが、土木用薬剤は公共工事の増加により好調に推移しました。環境配慮型の合成潤滑油はやや低調に推移しました。その結果、売上高は総じて堅調に推移しました。



水系ウレタン樹脂は繊維用途が伸長し、難燃剤はゴム・プラスチック用途が伸長しました。光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が顕著に伸長しました。その結果、売上高は総じて大幅に伸長しました。

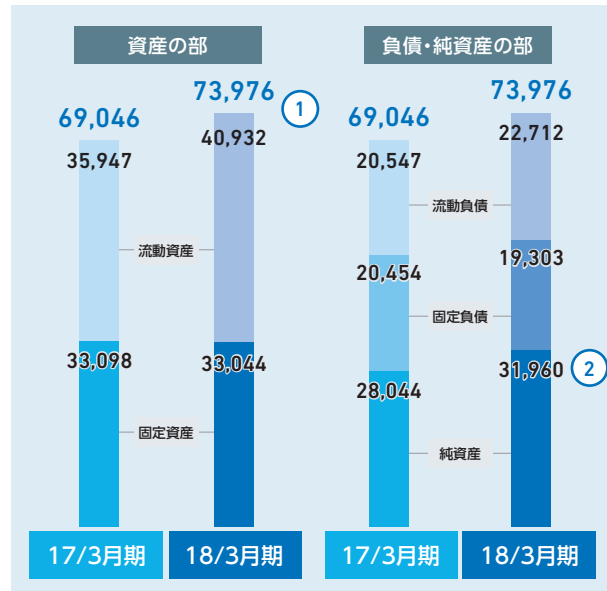


射出成形用ペレットは大きく落ち込みましたが、太陽電池用途の導電性ペーストが需要の回復により顕著に伸長しました。その結果、売上高は総じて顕著に伸長しました。

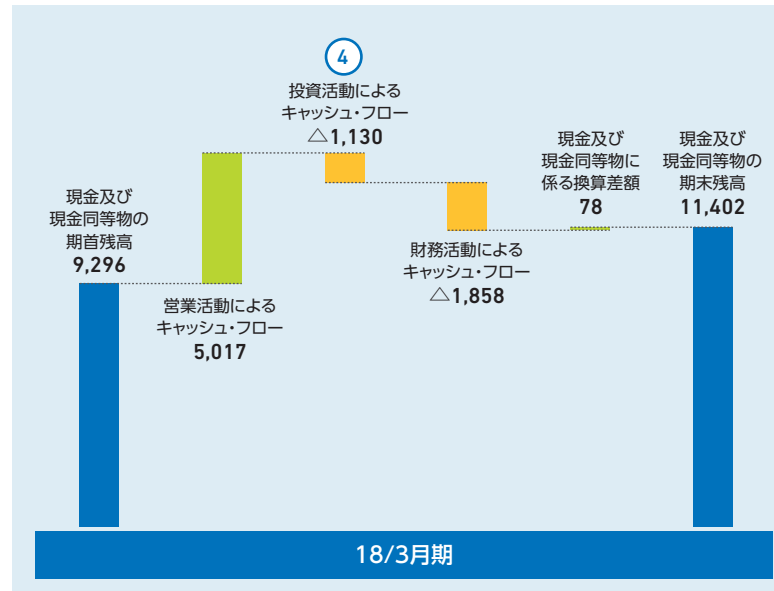


連結財務情報

連結貸借対照表 (百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



ポイント

① 総資産

流動資産は、主に現金及び預金が21億44百万円、当連結会計年度末日が休日であった影響等により受取手形及び売掛金が16億82百万円増加しました。固定資産は、株価の上昇等により投資その他の資産が7億62百万円増加したものの、台湾の連結子会社である晋一化工股份有限公司における将来の工場移転に備えた不動産の処分等により、土地をはじめ有形固定資産が8億6百万円減少しました。

② 純資産

前連結会計年度末と比べ39億16百万円増加し、319億60百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益33億51百万円及び剰余金の配当6億8百万円により利益剰余金が27億43百万円増加したことなどによるものです。

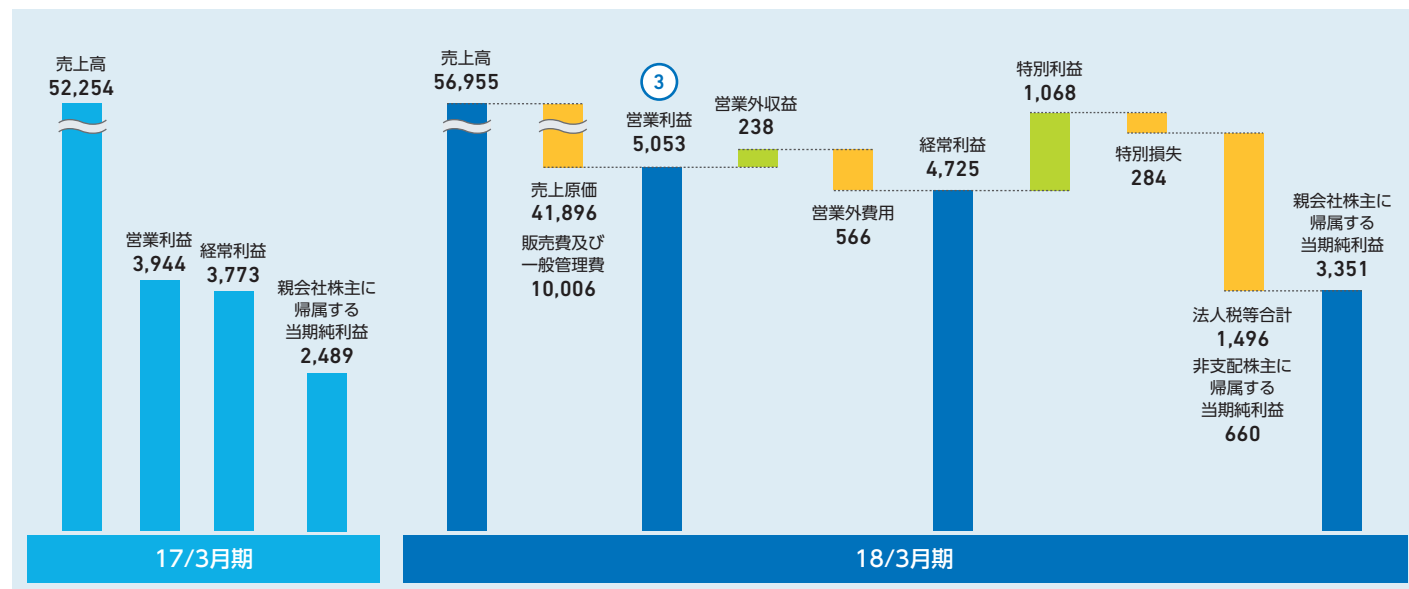
③ 営業利益

『界面活性剤』や『機能材料』のIT・電子用途等を中心とした高付加価値品の売上高が顕著に伸長し、原材料価格が低水準で推移したことから、営業利益は50億53百万円(前期比28.1%増)となりました。

④ 投資活動によるキャッシュ・フロー

台湾の連結子会社である晋一化工股份有限公司における将来の工場移転に備えた不動産の処分等による有形固定資産の売却18億22百万円などにより資金が増加しましたが、非イオン界面活性剤製造設備の建設等による有形固定資産の取得25億5百万円などにより資金が減少し、投資活動の結果、使用した資金は11億30百万円となりました。

連結損益計算書 (百万円)





暮らしの中で役立つ製品

当社の製品は、日々の暮らしの中の部素材として活躍しています。ここに、製品の一例をご紹介します。



Close-Up



岩盤固結剤

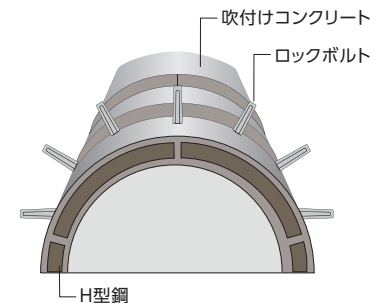
岩盤固結剤 GANBAN®

当社のウレタン事業は、1960年、軟質ウレタンフォーム用原料の製造に始まります。当社は既存技術を生かした高付加価値製品の開発を推進し、防水材、床材、全天候型舗装材、止水材など、土木・建築用に製品を拡充してきました。トンネルの岩盤固結剤であるGANBANは、環境負荷を低減する、高付加価値なウレタン製品です。

山岳トンネル工事に貢献

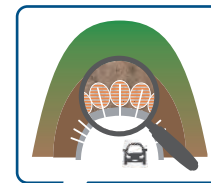
山林が国土の約2/3を占める日本。山岳トンネルは、道路・港湾などと並び、産業や生活を支える重要な社会基盤です。トンネル工事の崩落対策に効果を発揮するGANBANは、浸透性に優れ、地山の細かい亀裂まで確実に充填することができます。また、短い時間で高強度の固結体となるため、工事の安全性も確保できるなど、世界トップ水準といわれる山岳トンネルの施工技術の高度化にも貢献しています。

トンネルの構造



トンネル工事で活躍するGANBAN

崩れやすい岩盤の固結剤として、地山の崩壊防止に効果を発揮します。



1 トンネル坑口付



2 GANBAN注入前



3 GANBAN注入後



4 トンネル施工中全容



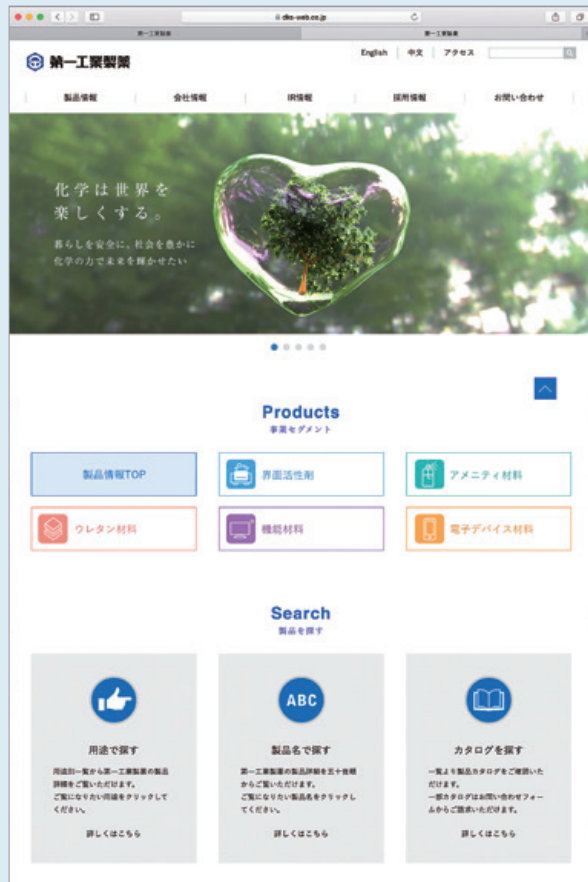
決議結果

株式の状況 (2018年3月31日現在)

第154期定時株主総会決議のご通知

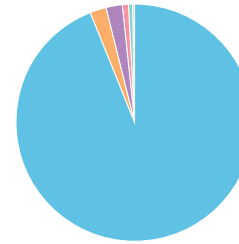
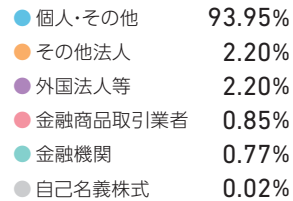
2018年6月26日開催の第154期定時株主総会は、お蔭様をもちまして終了いたしました。その決議の結果につきましては、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載いたしております。

こちらをご覧ください
<https://www.dks-web.co.jp>

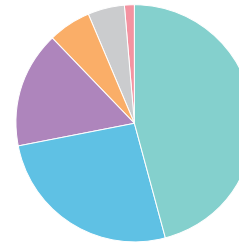
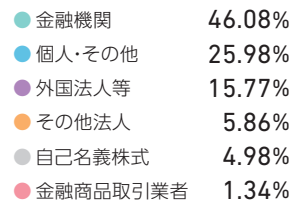


株主分布状況

株主数比率



株式数比率

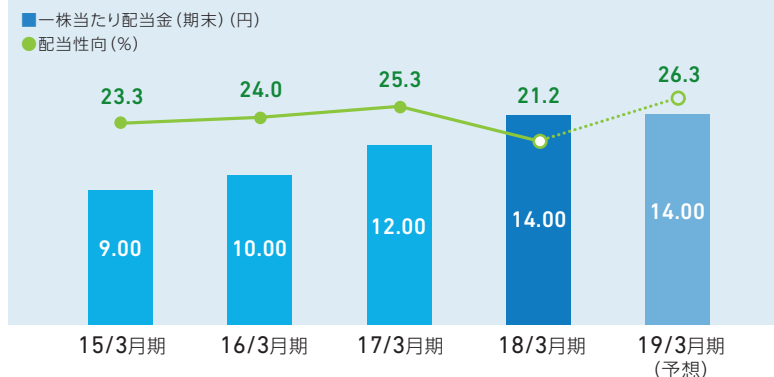


大株主一覧(上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,891,000	11.61
第一生命保険株式会社	3,067,000	6.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,496,000	4.92
株式会社みずほ銀行	2,135,000	4.21
株式会社京都銀行	2,085,000	4.11
朝日生命保険相互会社	1,697,000	3.34
DKS取引先持株会	1,362,000	2.68
第一工業製薬従業員持株会	1,252,269	2.47
RE FUND 116-CLIENT AC	1,201,000	2.37
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,062,536	2.09

(注) 1.当社は自己株式を2,661,260株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

配当金・配当性向の推移



会社概要 (2018年3月31日現在)

会社概要	
社名	第一工業製菓株式会社
創業	明治42年4月
創立	大正7年8月
資本金	88億9,520万円
従業員数	497名(連結976名)


取締役、監査役			
役職	氏名	役職	氏名
代表取締役 会長兼社長	坂本 隆司	代表取締役 専務取締役	赤瀬 宣伸
常務取締役	浦山 勇	常務取締役	大西 英明
取締役	北田 明	取締役	岡本 修身
取締役	山路 直貴	取締役	河村 一二
取締役	三澤 英人	取締役(社外取締役)	青木 素直
取締役(社外取締役)	高島 雅博	取締役(社外取締役)	谷口 勉
常勤監査役	西崎 信一	常勤監査役	藤岡 敏式
監査役(社外監査役)	井手 秀彦	監査役(社外監査役)	田中 晴男

事業所	
●本店	●四日市事業所 千歳工場
●本社・研究所	●四日市事業所 霞工場
●東京本社	●大湊事業所
●大阪支社	●滋賀事業所
●名古屋支店	
●九州支店	

株主メモ	
創業年月	明治42年4月(1909年4月)
事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
配当	期末配当金受領株主確定日 3月31日 中間配当金受領株主確定日 9月30日
単元株式数	1,000株
発行済株式総数	53,421,609株(2018年3月31日現在)
取扱窓口	証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主さまの各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、みずほ証券(株)及びみずほ信託銀行(株)にてお取次いたします。
お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行(株) 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(株)及び(株)みずほ銀行の各本店及び全国各支店
上場取引所	東京証券取引所(証券コード4461)

第一工業製菓株式会社

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5
TEL 075-323-5911 FAX 075-326-7356
<https://www.dks-web.co.jp>

統合レポートは
こちらのQRコードから




TOPIC

霞工場スマート化の実現に向けて

2018年3月28日、マザー工場と位置づけている四日市事業所霞工場で新設備の起工式を執り行いました。

公益財団法人三重県産業支援センター会長をはじめ、行政の方々、工事関係者、当社経営陣ら36名が出席し、工事の安全を祈願しました。

新設備は機能性ウレタン製品の製造設備として、2019年6月の完成を予定しています。今回で3回目となる建設では、製造プロセスの高効率化や製品の品質向上を目指したスマート化を実現します。



UD
FONT

VEGETABLE
OIL INK